「さよなら」と　扉をひらくと
風が頬をかすめ　秋澄む空が迎えでる

朝の　草花につく白露
咲き乱れる花　散りゆく百日紅
広場にならんだ　うつむくひまわり
色鮮やかな照葉になろう　枯れゆく青葉

汗ばむ季節に　わかれをつげ
足早な夕暮れどきに
ぎゅっと　つなぐ子の手が　暖かい

もっと寒くなるかな　うつりかわる季節よ

ひばりが丘の街に和を描く
コミュニティメディア

A'ERU アエル

MACHINI-WA HIBARIGAOKA		vol. 26
2024	Autumn	

お出かけスポット

今回は商店街ではなく「おでかけスポット」のご紹介。外出しやすいこれからの時期、ちょっと足を伸ばして訪問してみてください。歴史や文化を感じられる場所です。

1 旧高橋家屋敷林（下保谷4丁目特別緑地保全地区）

西武池袋線保谷駅北口　徒歩5分

「旧高橋家屋敷林」では、野草園、竹林、シラカシやケヤキの高木、屋敷などが保全されています。たくさんの種類の鳥や小さな生き物も見られます。自然の営みを活かして堆肥づくりや手仕事をしていた武蔵野の暮らしにタイムスリップするようです。毎月行われるイベントでは、ワークショプも行われます。一般公開は月２回。野草園は毎週金曜日公開です。

【基本情報】
西東京市下保谷4丁目7−4
イベント・一般開放問い合わせ先：ランドブレイン株式会社
03-3263-9388
yashikirin@landbrains.co.jp

2 吉澤章　折り紙ギャラリー

西武池袋線東久留米駅東口　徒歩3分

小学2年生の道徳の教科書で紹介されている国際的な創作折り紙の第一人者、吉澤章さんの作品を展示しています。作品は季節に合わせ変わります。今にも動き出しそうな生き物が１枚の紙から作り出されていることに驚きの連続。紙とは思えない曲線や立体感、マジックを見るようです。土曜日にはワークショップも行われています。

【基本情報】
東久留米市東本町14-25 カムレイド202号室
042-420-4843
営 午前10時30分~午後4時
休 水曜日、木曜日
大人200円、小中高生100円

3 村野家住宅（顧想園）

西武新宿線小平駅北口徒歩20分　南口よりタクシー7分

東久留米駅西口よりバスで行くこともできますが、わかりやすいのは小平駅から小平霊園を抜けて行く行き方。新青梅街道を渡り、天神社、湧水スポットを巡るのもお勧めです。国の登録有形文化財「村野家住宅」は江戸時代から明治期にかけての武蔵野の景観が保存されています。新緑、紅葉の時期は特に見応えがあります。見学会にぜひご参加を！

【基本情報】
東久留米市柳窪4-15-41

4 練馬区立牧野記念庭園

西武池袋線　大泉学園駅南口徒歩5分

駅を背にして上石神井通りを真っ直ぐ、自動車教習所の隣です。NHKドラマ「らんまん」で主人公となった植物学者牧野富太郎が30年余りを過ごした自宅の庭の跡地を公開しています。庭園には約300種類の植物が植えられ、四季折々ちがった景色が楽しめます。博士の描いた植物画などの常設展示の他、企画展やワークショップも開催されます。

【基本情報】
練馬区東大泉6-34-4
03-6904-6403
営 午前9時~午後5時
休 火曜日、年末年始
入園料：無料

まちにわ Books

まちにわ ひばりが丘や当地域に縁ある本を紹介するまちにわBOOKS。今回ご紹介する本は、ひばりテラス118の南側に位置する「東大生態調和農学機構（以下、機構）」の教授であり、南沢在住の著者がトマトの研究をまとめた「美しいトマトの科学図鑑」。本書では、見た目も味も大いに個性があるトマトたちが勢揃い。細長いもの、深いひだをもつもの、赤、黄、オレンジ色から黒色、甘み、酸味、生食か調理向きかなど形、色、味とその多様性には驚くばかり。また、うっとりするほど美しく、かわいいトマトの写真も見ているだけで楽しめます。トマトはすべて機構で育てたものです。ひばりが丘団地の近所で、日本に誇る研究が行われているその一端を、ぜひ本にとって味わってみてください（トマトだけに）。ひばりテラス118でも購入できます。

ひばリンピック2024 -地域防災・運動会の開催

「ひばリンピック2024-地域防災・運動会」が、9月22日にひばりが丘中学校にて盛大に開催されました（ひばリンピック大会事務局主催）。100人の地域サポーターと500人の子どもたちが集まり、防災コンテンツや、いろいろなスポーツを楽しく体験しました。又、ひばりが丘中学校吹奏楽部の演奏が地域の皆さんに披露される場ともなりました。12月22日にはリレーマラソンが予定されています。詳しくはQRコードからひばリンピック公式HPをご覧ください。

INFORMATION

今秋もひばりが丘団地ではイベントが盛りだくさん！

イベント　ひばりが丘団地 秋まつり

日時：10月26日(土) 11:00~16:00（雨天10/27に延期）
内容：飲食、物販、催し物等
場所：たんぽぽ広場
共催：ひばりが丘団地・パークヒルズ自治会、一般社団法人まちにわ ひばりが丘

イベント　にわジャム2024

テーマ：『つながる、広がる、創る！みんなの文化祭』

日時：10月27日(日) 11:00~16:00（雨天中止）
場所：ひばりテラス118／ひばりが丘東けやき公園（東久留米市ひばりが丘団地７）／ひばりが丘西けやき公園（東京都西東京市ひばりが丘3-4-1）
場所：今年は初出店のワークショップや体験ブースのほか、プレイコーナー、ハロウィンスタンプラリー、飲食ブース、キッチンカー、物販、ギャラリーなどが盛りだくさん！詳しくは、QRコードをチェック！
主催：一般社団法人まちにわ ひばりが丘

詳しくはこちらから

MACHINI-WA HIBARIGAOKA

発行元：一般社団法人まちにわ ひばりが丘
デザイン：浅見美沙
写真：宗像 康弘（表紙）
鈴木暁子（P2、P3／AERUライター）
問合せ：info@machiniwa-hibari.org
WEB：https://machiniwa-hibari.org/
発行日：2024年10月20日

メールマガジン無料配信中！
ご登録はこちらから

「まちにわ　ひばりが丘」の情報や、イベント情報などをお送りしています。左のQRコードから登録、または、件名を「メールマガジン登録希望」として info@machiniwa-hibari.org までご連絡ください。

お問い合わせは
以下ご連絡先まで
Tel：042-452-5758
Mail：info@machiniwa-hibari.org

ひばりが丘周辺の歴史を探る

AÉRU HISTORY

たんぽぽ幼児教室が半世紀以上に渡り守ってきたのは、地域に根差した温かい育みの場所

世代を超えた交流の場になった教室のこれまでと未来

たんぽぽ広場にあるキリンの絵が目印の「たんぽぽ幼児教室」。その歴史は古く、マンモス団地と呼ばれたひばりが丘団地に暮らす、住民の働きにより保育園はできたものの、専業主婦家庭の子どもたちが安心して遊び育つ場所を作ろうということで、母親たちの自主運営から始まったのが「たんぽぽ幼児教室」でした。教室の特徴や子どもたちの取り組みについて知りたくて、ひばりが丘団地・パークヒルズ自治会（以下自治会）幼児教室部の平賀千秋部長を訪ねました。

ひばりが丘団地・パークヒルズ自治会
たんぽぽ幼児教室
部長 平賀（ひらが） 千秋（ちあき） さん

全国的に珍しい自治会による運営の歴史　親と保育者と地域が作り育てた教室

ー自治会運営の歴史を教えてください

昭和34年にひばりが丘団地ができて、37年に当時の保谷市に「そよ風保育園」が開園しました。しかし入れるのは共働き家庭の子どもだけで、他に幼児施設がなかったんですね。そこで団地に暮らす母親たちが立ち上がり自治会と共に作ったのが「たんぽぽ教室」なんです。自治会が母体になって運動したので自治会が運営し今日にいたります。あの当時、団地の中に共同幼稚園のような施設を最初に開いたのは、ひばりが丘団地だと聞いています。

ー最初は集会所を利用していたと？

そうですね。そこで自主運営をしながらの集団保育でした。そこからしっかり保育をしていくための先生を雇い、現在の園舎も借金をして自分たちで建て、そのお金もコツコツと返しましたね。保育料と入園料だけで運営していますから、それ以外にもお祭りやバザーなど開き運営費を作ってきました。私たちの教室は、「幼児教育類似施設」という区分に入るため、いわゆる学校法人の幼稚園とは成り立ちが違います。市民が立ち上げて市民（自治会）が運営している幼児教室ということになります。

ーたんぽぽ幼児教室の特徴について教えてください

保育園は親が働いている等で子どもの世話ができないという前提なので、基本的な生活習慣の学びを保育園でします。しかし幼稚園は教育を与える場所という役割のために、生活に関わることは家庭で躾ける教えるというのが前提にあります。うちの場合は、そのような分け方ではなく、生活習慣とコミュニケーションのあり方を大事に考えており、それは運営が始まった時から変わりません。なぜそれがうまくできたかというと、保護者と保育者が一緒になって、教室の運営を行なってきたので、自然とそれがまかなえてきたのだと思います。

ー在籍しているのは何人ですか？

現在は2歳児が18名、3歳児（年少）6名、4歳児（年中）5名、5歳児（年長）14名。3-5歳児では年齢別に資格をもった保育者が3名、補助の先生が各2名。2歳児18名で、曜日によってきている人数が違いますが、担任が1名と補助3名の4人体制でみています。

あえて幼稚園ではないため自由裁量　保護者と保育者が目指す子どもの豊かな成長を支える保育

ー幼稚園化を目指さなかった理由はなんでしょうか？

40年代のベビーブームの頃は、各地のマンモス団地に伝播して幼児教室がありました。しかし今も自治会が運営しているのは、ここだけではないかと思います。幼稚園の認可というのは、いろいろな行政的な決まりをクリアにしなくてはなりません。何よりも日々の保育についての縛りが生まれてしまいます。

うちは、季節によってお散歩をいっぱいするんですね。しかし幼稚園ならば、事前にお散歩の申請を出さなくてはいけない。事故や事件等を防ぐためには、こうした行政指導の大切さはもっともなんです。ただ私たちは子どもの自由な遊びを通じて、子供の体力や精神的な成長が引き出せると考えて指導してきました。そのために自由裁量を取れる今の形態の方が合っていると考えています。

ー掲げている目標は「みんなと遊ぶ子　思いっきり遊ぶ子」ですね

まず朝9時から10時の1時間は、何をしてもいい。とにかく思いっきり好きに遊ぶ時間です。一人でいてもいいし、お友達と遊んでもいい。みんなで砂場に行ってもいいし、一人で折り紙を楽しんでもいいんです。うちは異年齢の縦割り保育ですので、年齢関係なく遊ぶわけです。年齢が違うことで、できるとできないとの上下が生まれます。それを子どもたちが助けたり、教えたりしながら一緒に遊ぶ姿が日常の中にあります。年齢で教室を分けていないからこそですね。

また、保育者や保護者の手を借りることもありますが、基本的に自分のことは自分でできるように、日々の中で導くようにしています。年齢によってできることが違いますが、小さい子たちも周りや年長の子をみて、できることが増えてきます。そして、上の子が下の年齢の子に向かって、乱暴な振る舞いや言葉なども日常では出てきます。友達の嫌がることはしてはいけないって注意されても、しちゃうんですよ（笑）でもそうした環境の中で、だんだんわかるんです。他人を大切にするってなんだろうとか、優し言葉や振る舞いも自然とできるようになってくる。そうした気づきを保育者は導きにするようにしています。

子どもたちはそういう経験の中で、自分を大切にし、相手も大切な存在として扱うということを学んでいきますね。

ーよくお散歩をするのはなぜですか？

団地のいいところは自然が豊かで公園がいっぱいあることですね。

うちでは「めざせ日和田山」ということで、入園すると近くの散歩から始めて、年長の夏に行う日和田山の登山ができるようにしています。歩くことで土踏まずがしっかりできるし、体力も付きます。最初歩くのは楽しいですが、帰りは疲れも出ます。お友達が疲れているのを励ましたり励まされたり、その中で子どもたちの社会性や忍耐力は育ちます。歩くことで体幹も鍛えられますし、それがまた遊びを通じて運動能力の向上になっていると子どもたちをみていて感じますね。

ー保護者は運営にどのような関わり方をしますか？

運営については理事会の委員会があり、保護者の代表も参加します。それ以外にも父母会で保育者との話し合いがありますね。また園の行事に関しても保護者が担ってくれていますし、パンフレットやSNS、広報やプールの設置、園舎の維持などにも保護者が関わって支えてくれます。入園した4月の保護者会では、みんなが何かの担当になって運営に関わるため、親も縦横の繋がりができていく感じですね。

ーまちにわとの繋がりはどのような役割を期待しますか？

現在は、団地だけではなく、周辺マンションのお子さん方がたくさんいます。最初は団地の子の安全な成長場所だったところが、地域が広がり、子どもだけではなく親にとっても、交流や学びの場に園がなっていると感じています。半世紀以上子どもたちを育ててきた場所が、世代を超えた次の世代へと引き継がれていっているなと思うのです。それにはやはり地域の方との絆を育てていくことがとても大切だと実感しています。イベント等を通じた、まちにわとの繋がりができたことで、いろんな方、地域との出会いや連携がしやすくなっていると思いますね。また地域だけではなく、まちにわを通して、教育や福祉、環境保全など広い分野の専門家やボランティア等とも知り合える。それに期待しています。

たんぽぽ幼児教室

公式ホームページ

Instagram

AÉRUライター

鈴木 暁子
ライター

出版社勤務を経て、都内のコンテンツ制作会社に勤務。フリーランスライターとしては、人物インタビューを主に行っています。今関心があるのは、地域コミュニティーと棚田の再生。また人と人が助け合う暮らしやすい社会活動です。

「たんぽぽ幼児教室」にお子さんを通わせている中岡愛結美さんに、保護者の実感を聞きました。

「ちゅうりっぷ（2歳児クラス）」も含め、上の子の時から数えると園との関わりは6年間になります。小学生になり子どもが自立していく前の数年間、「子どもたちに手をかけられる時間は後数年」という思いがあり、この園を選びました。

親と離れて過ごす数時間、子どもにとってお弁当の時間は、家庭を感じ、ほっとするひと時だと思います。雨の日、雪の日の通園もその日ならではの楽しみがあります。

古い園舎も好きです。子どもたちは自由な発想で遊び、暑い日は涼しいところを探して過ごします。「少し不便なこと」を経験するからでしょうか、卒園生をみても忍耐強い子が多いように思います。

　また、年少期からの遠出の散歩はたんぽぽ幼児教室の大きな特徴です。「多くの体験」と共に、子どもたちの「忍耐力の土台」となっているな、と実感しています。

保護者はひばりが丘団地パークヒルズ自治会幼児教室部として運営にかかわっています。全員が係に分かれて活動しますが、親も縦割りです。子育ての悩みを相談したり、経験談を伺ったり。とても安心できる環境です。また、大きな行事だけでなく、日頃からベテランの保育者と共にかかわることで、子どもの成長を目の当たりにすることができます。「がんばったねー」という言葉に実感がこもります。

運営にかかわるという事は、自治会の他の部との協働、行事の遂行、広報活動などで園の外部とも接点を持ちます。就業しないことで、ともすれば社会から切り離された感覚になりがちな女性にとって、社会的な活動をする機会となります。子育て中心の時期の次のライフステージの準備にもなり、親にとっても充実した時間になると思います。